

粗摘果は葉果比 10～15 を目安に、早生温州では7月上旬までに、普通温州では7月中旬までに裏年で着果量の少ない樹を除き進めましょう！

1 令和2年6月の気象

令和2年6月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第4、第5半旬がほぼ平年並みで、他は平年より1.8～2.9℃高かった。月平均気温は22.4℃で、平年より1.7℃高く、前年より1.5℃高かった。

降水量は、第1、第2半旬はほとんど降雨がなく、第6半旬は平年より多く、他は平年並みであった。月合計は207mmで、平年の85%、前年の69%であった。

日照時間は、第2、第4半旬は平年より多く、第3、第5半旬は平年より少なく、他は平年並みであった。月合計は140時間で、平年の105%、前年の89%であった。

表1 令和元年6月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	22.1	19.7	20.5	6	26	2	28	29	34
2	22.8	20.1	19.7	0	29	137	39	26	16
3	23.2	20.3	18.6	52	47	75	13	22	24
4	21.1	21.2	22.0	41	45	13	28	20	52
5	21.4	21.1	20.6	51	55	48	13	18	9
6	23.8	22.0	23.9	58	43	25	19	19	22
平均/計	22.4	20.7	20.9	207	244	299	140	133	157

2 果実及び樹の生育

本年は裏年に当たるため、早生温州の着果量は平年よりやや少ない～並みであった。普通温州の着果量は平年より少ない樹が多いが、着果量が多い樹もみられた。そのため、後述するとおり樹の着果量に応じて摘果する時期及び量を調整する。

暖地園芸研究所内の病害虫の発生状況は、6月初旬ごろからハモグリガ及びアオハシゴロモの幼虫を見かけるようになった。また、果樹カメムシ類の発生は5月に引き続き中発生程度であった。

3 7～8月の栽培管理

(1) 摘果

摘果は粗摘果と仕上げ摘果の2回に分けて行う。

1回目の粗摘果は、早生温州では7月上旬、普通温州では（樹勢が低下している場合のみ）7月中旬までに葉果実比10～15程度で行い、その後8月上旬～8月中旬まで（粗摘果の1ヶ月後）に1果当り葉数で早生温州は25～30枚、普通温州は20～25枚程度で仕上げ摘果を行う。着果の少ない裏年の樹では、早生温州、普通温州ともに粗摘果は行わず、他の

樹よりも遅めに仕上げ摘果を行うか、収穫1ヶ月ほど前の樹上選果のみとする。

着果量が中程度の樹で間引き摘果する場合は、早生温州、普通温州ともに極大果や極小果、内成り、すそ成り、奇形果、傷果、隣接する果実を優先的に、全体を軽く間引き摘果する。普通温州は果実肥大が進みやすいため基本的に早期摘果は行わず、樹勢の落ちている樹のみ行う。

着果量が多い樹では、早生温州では隔年結果を避けるため、できるだけ早く枝別全摘果を行い、残った枝についても極大果や極小果、内成り、すそ成り、奇形果、傷果、隣接する果実を摘果する。普通温州においても枝別摘果を行い、着果させる枝は軽く摘果するのみとする。

(2) マルチ資材の被覆

高品質果実の生産にマルチ栽培は有効である。被覆の時期は、早生温州は7月下旬、普通温州は8月上旬を目安に開始する。土壌の乾きやすさや灌水設備の有無によって、被覆開始時期や地表面に対する被覆割合を調節する。マルチ栽培の適地は、水はけと日当たりが良く、着果量が中程度以上の園地である。

(3) 主な病害虫の防除

1) かいよう病

かいよう病の多発園では、梅雨時期や台風前の銅水和剤散布を心がける。ただし、銅水和剤はマシン油乳剤、デランフロアブルとの近接散布による葉害が起こりやすいので、2週間は散布時期をずらす。

2) 黒点病

黒点病は幼果期から成熟期にかけて感染、発病する。病原菌は樹上・園内及び周辺の枯枝で降雨等による水滴によって伝染するため、梅雨入り前に樹上の枯れ枝の除去や薬剤防除を行う。ジマンダイセン水和剤／ペンコゼブ水和剤の付着量は降雨により減少するため、前回散布後の積算降水量が200～250mmに達したときか、前回散布の約30日後に再散布する。

3) ミカンサビダニ

6月頃から9月まで果実を加害する。被害の拡大を防ぐ為、果実1～2個の被害を見たら直ちに防除する。特に、樹冠の内部・上部など薬剤のかかりにくい部分に発生が多いため、摘果時に注意深く見る。

4) ミカンハダニ

果実や葉を加害する。重要な防除時期は梅雨明け期であるが、気象条件によって早晚があるので注意する。寄生葉率が30%以上になった時点で速やかに防除を行う。

5) ミカンハモグリガ

隔年結果している樹や苗木等、夏枝の発生が多い樹において発生が多い。モスピラン水溶剤等殺虫剤を散布する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>